

ファゴット演奏者倶楽部第12回演奏会

2025年10月12日(日)14時開演 荻窪Gran Duo

カステル-ブラーズ	(仏/1784~1857)	3本のファゴットの為の三重奏曲第2番	(Fg)山田・松井・阿部
ベートーヴェン	(独/1770~1827)	クラリネットとファゴットの為の二重奏曲第3番	(Cl)兼氏 (Fg)森川
カステル-ブラーズ	(仏/1784~1857)	3本のファゴットの為の三重奏曲第1番	(Fg)森川・松井・尾作
ファンハル	(捷/1739~1813)	「15の小三重奏曲」から	(Ob)山本・楠原 (Fg)山田
モーツァルト	(奥/1756~1791)	2本のCl.とファゴットの為の嬉遊曲第4番Kv.439-4	(Cl)兼氏・黒木 (Fg)尾作
ヴィラ-ロボス	(伯/1887~1959)	ブラジル風パッサ第6番	(Fl)信澤 (Fg)吉倉
モーツァルト	(奥/1756~1791)	Ob.Cl.とファゴットの為の嬉遊曲第3番Kv.439-3	(Ob)楠原 (Cl)黒木 (Fg)阿部
--- Intermission---			
オコーナー	(米/1874~1945)	「SPUDS(にきび)」風変わりな行進曲	(Ob)楠原・山本 (Fg)尾作
ウォーカー	(米/1883~1960)	「the funny bunny hug」	(Ob)山本・楠原 (Fg)阿部
ドヴィエンヌ	(仏/1759~1803)	Fl. Cl.とファゴットの為の三重奏曲 Op.61-6	(Fl)信澤 (Cl)兼氏 (Fg)吉倉
モーツァルト	(奥/1756~1791)	2本のCl.とファゴットの為の嬉遊曲第2番Kv.439-2	(Cl)兼氏・黒木 (Fg)山田
カステル-ブラーズ	(仏/1784~1857)	3本のファゴットの為の三重奏曲第3番	(Fg)尾作・阿部・吉倉
ジェイコブ	(英/1895~1984)	Ob.Cl.とファゴットの為の三重奏曲	(Ob)山本 (Cl)黒木 (Fg)松井
ギブリン	(米/生没年不明)	「チキンチャウダー」 (1905年作曲)	(Ob)楠原・山本 (Fg)松井

出演者の簡単なプロフィール(50音順)

ファゴット演奏者倶楽部のメンバー

阿部 憲一(あべ けんいち) 本日の使用ファゴット~Heckel

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを光永武夫氏、森正彦氏、日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾン、管楽合奏は楽しい会?で演奏活動。大手化学会社に42年勤務する。退職後に音楽を中心に、毎日が日曜の生活が始まった。ボケ防止と、健康寿命を延ばすため、体力と筋力の強化に努めている。

尾作 拓郎(おさく たくろう) 本日の使用ファゴット~Yamaha Custom 812 model

1984年生まれ、神奈川県出身。法政大学第二高等学校の吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て同大学卒業後、現在はキャッシュレス決済サービスのシステム開発をする傍ら、週末に積極的に演奏活動を行っている。現在は管楽合奏は楽しい会?に所属。

(+解説)森川 一(もりかわ はしめ) 本日の使用ファゴット~Pickert (日本に一つしかない珍品)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会?」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰、またリード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部代表

松井 美帆(まつい みほ) 初参加! 本日の使用ファゴット~Fox・Renard model

中学の吹奏楽部に入った折、言われるがままファゴットを吹くことに。兵庫県立神戸高校吹奏楽部、京都三大学合同交響楽団を経て、医薬品分析の本業の傍ら市民オーケストラ等で活動する。2024年に転職し関西から関東へ進出。音楽活動を軸に関東を開拓中。高校の先輩である阿部氏に誘われ、本公演に初出演。2024年に初めて食した鰻の白子が大好物になり、冬の訪れを心待ちにしている。

山田祐理（やまだ ゆうり） 本日の使用ファゴット～Mollenhauer

10歳くらいまでヴァイオリンを、中学でユーフォニアムを吹き、法政二高吹奏楽部でファゴットを始める。その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニー、管楽合奏は楽しい会?で演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。平日は大学教員(物理化学)。

吉倉弘高（よしくら ひろたか） 本日の使用ファゴット～Fox 600SL model

高校入学と同時にファゴットを始め、加藤洋男氏に師事。その後横浜国立大学管弦楽団でオーケストラ活動を開始。大学卒業後、三鷹市管弦楽団を経てダンゲダーク管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで活動中。また大学在学中から休止になる2001年までジュネスに参加し、最後の青少年音楽祭では首席を務めた。

註)ジュネス JEUNESSES MUSICALES 青少年音楽世界連合～ユネスコ傘下組織/本部ブリュッセル～日本ではNHKに支部があり、東京その他で25歳以下(後に30歳未満)の若者を対象に毎年音楽祭(合唱・マンドリンオーケストラ・交響楽団)を催したが、2001年を最後に日本での活動を休止した。

賛助出演の方々(パート別50音順)

(F1)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始める。東京大学音楽部管弦楽団に入団し磯辺庄平氏に師事、卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動。鉄鋼メーカーや特許調査機関勤務を経て、2024年3月にサラリーマン生活に一旦終止符を打ったが2025年4月、呼び出されて前職場に帰った。オケ、管楽合奏(以上フルート)、ビッグバンド、トロンボーンアンサンブル(以上バス・トロンボーン)を軸に活動中。「管楽合奏は楽しい会?」アンコール曲の専任編曲者

(0b)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原薫氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾン、管楽合奏は楽しい会?に所属。大学～大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(0b)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎市出身。中学校の吹奏楽部でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団でオーケストラを始める。現在は大田区のオーケストラに所属。勤務先の大学病院では広報やロビーコンサートの担当をしている。自他ともに認める無類のパンダ好きで、シャンシャンとレイレイの名付け親の一人である。

(C1)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館“公募企画シリーズ”の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリスTEN代表。フルスヴァルト合奏団同人

(C1)黒木彩香(くろき あやか) 初参加!

中学校のオーケストラ部でクラリネットを始める。これまでに、東京大学音楽部管弦楽団、化学オーケストラ(Orchestra Chimica)、オーケストラHA' MONなどで活動し、現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。クラリネットを平林邦男氏に師事。平日は、科学技術・研究開発に携わる方々を応援する仕事をしている。

ファゴット 演奏者倶楽部の演奏会も1ダースとなりました。前身から数えると22回目ですが、これまで多分30人くらいの方が参加しましたが、最終的に生え抜きで精鋭のメンバー7人が残りました。今回は残念ながら二人不参加なのですが、松井さんという新人が現れました。久方ぶりの新人の登場は嬉しい限りです。そこでという訳ではないのですが、曲目に始めた頃の作品を取り上げました。ファゴットだけの合奏曲が日本に入って来たのは50年くらい前でしょうか。Weissenbornのトリオを山畑馨氏(当時のN響首席)が手に入れられ、FMで放送されたのが最初でしょうか。私はその放送を知りませんでした、少し後に氏の生徒から楽譜のコピーを貰いました。その後色々な楽譜が回るようになったのですが、これと今日取り上げるCastil-Blazeが長らくポピュラーな曲目でした。

Castil-Blazeはフランスの作曲家ですが評論などの著作物が多く、代表作は本日演奏する三曲のファゴット三重奏曲と「クラリネット、ファゴットとホルンの為の六重奏」が出版されています。オペラも書いた様なのですが、現在は知られていません。まあファゴット関係の作曲家は一般に馴染みがない人物が普通なのですが(笑)

さて先ずは第2番から演奏を始めようと思います。ファゴットだけなのですが、演奏者によって微妙な音色や歌い回しの違いを聴き比べて頂ければと存じます。続けて超有名なベートーヴェンが、若い時に書いたクラリネットとの二重奏です。詳しくは記しませんが、作曲家が若い時に楽器の勉強の為に試作する事がままあります。三曲ある二重奏もそうしたものでしょう。しかし、流石に後のベートーヴェンを彷彿とさせる佳作になっています。特に第2楽章の変奏曲は9曲の交響曲に発展する内容だと思っています。それでは、最初の2曲をお楽しみ頂ければ幸いです。